

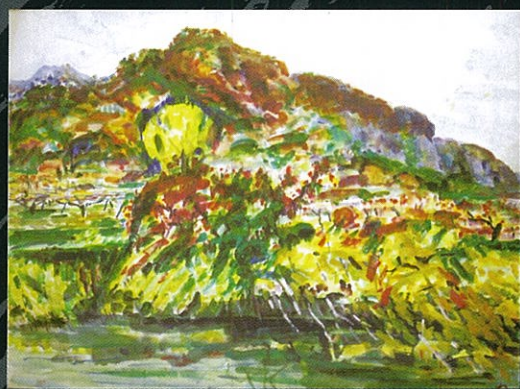
平成19年度 鳥取県文化功労賞 受賞記念巡回展

08'
1/9 ㊥ ▶ 1/16 ㊥
仁 風 閣
謁見所、陳列所
開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)

08'
1/19 ㊤ ▶ 1/25 ㊥
倉吉博物館
展示室4
開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)

08'
2/1 ㊥ ▶ 2/12 ㊤
米子市美術館
第3展示室
開館時間 10時～18時

※仁風閣については入場料150円が必要です。倉吉博物館、米子市美術館については入場無料です。



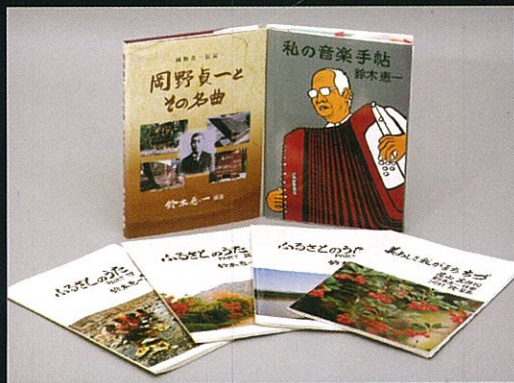
「秋の城山」

水彩画 **木原義明**

書 **柴山抱海**



「放哉の句」



「著作」

音楽 **鈴木恵一**

主催/鳥取県

お問い合わせ/鳥取県文化観光局文化政策課 電話(0857)26-7134 ファクシミリ(0857)26-8108 E-mail:bunsei@pref.tottori.jp

鳥取県では平成15年度から優れた芸術文化活動により、広く文化の振興に功績のあった方の功績を讃えて表彰し、県民文化の向上に資することを目的として、鳥取県文化功労賞を設置しています。本巡回展は、平成19年度に受賞された方の功績と活動を広く県民のみなさまに紹介するものです。

[本年度受賞者のみなさん]



木原義明 (きはら よしあき) 水彩画 (八頭町)

1923年(大正12年)八頭郡八東町(現・八頭町)生まれ。昭和18年の大戦中、水絵の近代的革新者である中西利男画伯に影響を受け、絵画に目覚める。昭和19年鳥取師範学校卒業後、教員となり御来屋小学校、八東小学校などを経て県内各中学校・高校で美術指導を行う。教壇に立つ一方で、自身の作品を精力的に各種作品展に出品し高く評価される。特に平成7年には、日本現代美術協会展で最高の栄誉である内閣総理大臣賞を受賞し、全国の水彩画壇においても幅広い支持を得ている。昭和58年定年退職後、海南文化教室、NHK文化センターで水彩画を指導するなど後進の育成や県民への水彩画の普及に寄与した功績は誠に顕著であり、地域文化の発展に多大な貢献を残した。平成19年8月27日 逝去



柴山抱海 (しばやま ほうかい) 書 (鳥取市)

1941年(昭和16年)東伯郡泊村(現・湯梨浜町)生まれ。文化功労者・手島右卿に師事し、昭和39年から高校で書道を教える傍ら精力的な創作活動を展開。鳥取での個展のほか、米国ハワイ・ホノルル(昭和51年)、中国の北京市中国美術館(昭和62年)、フランス・パリ(平成15年)、ドイツ・デュッセルドルフ(平成16年)などで多数個展を開催。書道文化の高揚に努め、国際的視野で中国の美大客員教授としても活動した。国内外を問わず優れた作品を発表するとともに、現代書の郷土への普及に努めた。また、若手の育成にも尽力し、「日本象書会」や「山陰書人社」等を結成した。県展、市展審査員として書道文化の底辺拡大にも努め、鳥取県書道連合会長なども務め、中央でも毎日書道展や独立書展等の審査員を務めている。主な著書は「日本の三筆」「最澄の書」「柴山抱海作品集」「書の虹」「王羲之の伝説」ほか。



鈴木恵一 (すずき けいいち) 音楽 (鳥取市)

1933年(昭和8年)鳥取市生まれ。鳥取大学学芸学部でピアノを、また同大学在学中の一時期、東京芸術大学音楽学部の委託生として作曲を学ぶ。昭和31年には小学校教諭となり、翌32年からは30年間にわたって県内の高等学校の音楽教諭を勤め、音楽教育の充実及び発展に努めた。昭和37年の鳥取市民合唱団創設とともに25年間常任指揮者として活動。また、鳥取市少年少女合唱団設立に寄与、鳥取県合唱連盟副理事長、鳥取県吹奏楽連盟理事等を歴任するなど、後進の指導育成を図った。その一方で、「ふるさと」など数多くの名曲を生み出した鳥取市出身の作曲家、岡野貞一について調査研究を行い、平成18年には初の伝記本として「岡野貞一とその名曲」を出版した。また、平成2年から毎年鳥取市で「童謡唱歌100曲マラソン」を開催するなど、本県の童謡唱歌の普及・推進に多大な貢献をしている。

[各会場へのアクセス及びお問合せ先]



仁風閣

鳥取市東町2丁目121 電話0857(26)3595

倉吉博物館

倉吉市仲ノ町3445-8 電話0858(22)4409

米子市美術館

米子市中町12番地 電話0859(34)2424